

アクセルをより知っていただくためのIRマガジン

AXELL

R e v i e w

第24期中間報告書

2018.4.1 ▶ 2018.9.30

要素技術の研究開発から製品化まで
行える総合力を生かし、
新規事業の確立に努めていきます。

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第24期中間期（2018年4月1日から2018年9月30日）の事業及び決算の概況についてご報告申し上げます。

代表取締役社長 **松浦 一教**

主力のパチンコ・パチスロ機市場は、依存症対策強化の影響などから厳しい環境下での推移となりましたが、当中間期の業績はほぼ計画通りの着地となりました。市場にはパチンコ・パチスロ機の新基準機が登場し、下期に向けて多少明るい兆しが見えてきたものの、依然として不透明な部分が多く、厳しい状況が続くことが想定されます。

こうしたなか、新規事業の確立が急務との認識のもと、新たな製品開発を着々と進めています。当社の強みである、要素技術の研究開発から、製品化を実現するハードウェア、ソフトウェア開発力まで総合的に有する当社の開発力は、新規市場でも大きなアドバンテージであるという手応えを感じています。当社を取り巻く環境は引き続き厳しいものですが、この強みを最大限に生かし、経済環境の変化に強い企業体質の一日も早い確立を目指します。

株主の皆さまにおかれましては、こうした状況をご理解いただき、引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

会社概要

設立年月日	1996年2月1日
資本金	10億18百万円
社員数	87名
事業内容	●半導体集積回路及び半導体集積回路を組み込んだプリント基板の設計、製造、販売 ●画像・音声・機械学習等に関する要素技術の研究、開発、販売 ●情報セキュリティに関する要素技術の研究、開発、販売 ●ブロックチェーンに関する要素技術の研究、開発、販売 ●インターネットを利用した各種情報提供サービス業 ●ソフトウェアの開発、販売 ●前各号に関する応用機器の設計、製造、販売 ●古物売買業 ●前各号に付帯する一切の事業
取締役	取締役社長(代表) 松浦 一教 取締役副社長(代表) 斉藤 昭宏 取締役 蟹江 幸司 取締役 客野 一樹 取締役(監査等委員) 三村 勝也 取締役(監査等委員) 鈴木 真巨 取締役(監査等委員) 西坂 禎一郎 取締役(監査等委員) 五十島 滋夫 ※監査等委員は全員独立社外取締役です。 ※三村勝也氏は常勤の監査等委員です。
所在地	〒101-8973 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX 南ウイング10階 TEL:03-5298-1670 FAX:03-5298-1671
主要取引先	緑屋電気株式会社 岡谷エレクトロニクス株式会社 アヴェネット株式会社
URL	https://www.axell.co.jp/

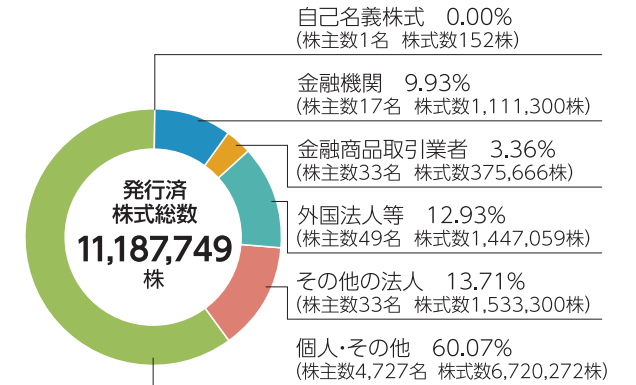
株式の概要

発行可能株式総数	23,112,000株
発行済株式総数	11,187,749株
株主数	4,860名

株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
佐々木 譲	1,243,200	11.11
緑屋電気株式会社	849,000	7.58
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	600,000	5.36
市原 澄彦	595,800	5.32
柴田 高幸	594,800	5.31
松浦 一教	388,800	3.47
HSBC BANK PLC A/C MARATHON FUSION JAPAN PARTNERSHIP LP	368,000	3.28
森屋 和喜	330,000	2.94
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	325,700	2.91
奥村 龍昭	269,000	2.40

所有者別分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日 (その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします)
期末配当金	3月31日
受領株主確定日	(中間配当を実施する場合は9月30日)
公告方法	電子公告により当社ホームページ(https://www.axell.co.jp/)に掲載いたします。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

お知らせ

株式に関する手続きについて

- 株主さまの住所変更、配当金の振込指定、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 配当金の口座振込のご指定につきましても、お手続きは配当金振込指定書を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなっております。従来同封いたしておりました当社専用の「配当金振込指定書」は同封を取りやめております。振込指定のお手続きにつきましては詳しくは各口座管理機関にお問合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



Non VOC INK Version 2
VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの
100%植物油のインクで印刷しています。



業績のご報告

当中間期の業績
厳しい状況を見据えた取り組みで
ほぼ計画通りの着地となりました

事業の中核であるパチンコ・パチスロ機市場は、2018年2月に実施された法改正の影響で、当中間期は想定通り厳しい状況で推移しました。このような状況のなか、当中間期はほぼ計画通りの業績となりましたが、前年同期に比べると主力製品のパチンコ・パチスロ機向けグラフィックスLSIが12万個（前年同期実績26万個）の販売にとどまるなど、厳しい業績となりました。これは主に低迷する市場環境の影響に加え、市場在庫の一時的な調整、リユース（再利用）に積極的な顧客が好調であったことによる当社製品のリユース率の上昇が要因です。以上の結果、売上高は2,190百万円（前年同期比1,196百万円減）、売上総利益は734百万円（同617百万円減）となりました。

販売費及び一般管理費は、全般的に経費を削減したものの、次世代主力製品の開発費の一部を計上したことから前年同期より497百万円多い2,146百万円（うち研究開発費1,698百万円）

となりました。これにより、営業損失1,411百万円（前年同期は営業損失295百万円）、経常損失1,403百万円（同経常損失288百万円）、四半期純損失988百万円（同四半期純損失123百万円）となりました。

当中間期は前年同期比で減収減益の厳しい業績となりましたが、財政状態は流動資産8,919百万円、うち現金及び預金6,858百万円と引き続き高い健全性を維持しています。

通期の業績見通し
業績の改善を推進して
通期計画の達成に邁進します

通期計画に対する中間期までの進捗は、概ね計画通りです。市場は引き続き不透明ですが、当期は新基準機の発売（もしくは導入）スケジュールなどを考慮して売上高、利益ともに下期偏重型の業績を計画しています。売上高は下期以降改善に向かうものと考えており、研究開発費も次世代主力製品の開発費が第1四半期でほぼ収束したことから、通期の業績計画を維持し、売上高6,300百万円（前期比26%減）の達成に取り組めます。なお、当期の配当については、当期純損失

1,050百万円の計画から、誠に遺憾ですが無配計画とさせていただきます。

新規事業の状況
スピード感を持って
事業の確立を進めています

当社では、経済環境の変化に強い持続的な成長を実現するために、現在の主力であるパチンコ・パチスロ機市場に加え、当社の強みが生かせる3つの領域において事業開拓を進めています。1つ目の「ミドルウェア（AXIP）」では、ゲーミング市場を主なターゲットとするミドルウェア製品群を開発、販売しています。リリース済みの動画圧縮、音声圧縮の各製品に続き、当中間期において超解像IP「GRADIA（グラディア）」、ディープラーニング・フレームワーク「AILIA（アイリア）」、画像や音声などの大量ファイルを1つにまとめるファイルパッカー「VUCKET（バケット）」の提供を開始しました。下期には動画を超高圧縮する「LESIA（リーシャ）」もリリース予定です。「AXIP」は多様な製品を提供することで、他社にないトータルソリューションを実現します。

2つ目の「暗号技術」では、2つの領域に取り組

んでいます。1つはアプリケーションを暗号化するセキュリティ製品で、ライセンス認証などに利用できる「SHALO（シャロー）」を、ソフトウェアとハードウェアの両方で提供する予定です。もう1つは仮想通貨で注目されたブロックチェーン事業です。子会社「VIPPOOL」を設立し、マイニングプール※1運営に加え、ブロックチェーン技術の有用性に注目したブロックチェーン支援事業などを展開する予定です。

3つ目の「機械学習」では、NEDO※2と共同で進めているプロジェクトや自動車の自動運転関連の研究成果を活用し、IoTエッジデバイスの高度化を実現する画像認識技術の構築に努めています。また、ディープラーニングシステムが簡単に構築できる仕組みを提供し、さまざまな用途を提案して早期の事業化を目指します。

新規事業の3領域は、いずれも応用分野が幅広く、飛躍的に成長している市場です。当社は、スピーディーな製品化で市場プレゼンスを高め、早期の収益確保を目指していきます。

※1 暗号通貨の取引所ではなく、マイナー（採掘者）と呼ばれる有志が協力して演算処理を行い、取引を管理するマイニングという取り組みを行うコミュニティのこと。
※2 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

第24期中間期の業績結果			
	前中間期実績	当中間期実績	増減率
売上高	3,387	2,190	△35%
売上原価	2,035	1,455	△28%
売上総利益	1,352	734	△46%
販売費及び一般管理費 （研究開発費）	1,648 (1,211)	2,146 (1,698)	30% (40%)
営業利益(△損失)	△295	△1,411	-
経常利益(△損失)	△288	△1,403	-
四半期純利益(△損失)	△123	△988	-

通期計画に対する進捗率			
	当中間期実績	当期通期計画	進捗率
売上高	2,190	6,300	35%
売上原価	1,455	4,150	35%
売上総利益	734	2,150	34%
販売費及び一般管理費 （研究開発費）	2,146 (1,698)	3,600 (2,750)	60% (62%)
営業利益(△損失)	△1,411	△1,450	97%
経常利益(△損失)	△1,403	△1,450	97%
純利益(△損失)	△988	△1,050	94%

第24期通期の業績計画			
	前期通期実績	当期通期計画	増減率
売上高	8,477	6,300	△26%
売上原価	5,335	4,150	△22%
売上総利益	3,142	2,150	△32%
販売費及び一般管理費 （研究開発費）	2,985 (2,134)	3,600 (2,750)	21% (29%)
営業利益(△損失)	156	△1,450	-
経常利益(△損失)	164	△1,450	-
純利益(△損失)	80	△1,050	-

貸借対照表		
	前期末	当中間期末
流動資産	11,479	8,919
固定資産	1,556	1,947
資産合計	13,035	10,893
流動負債	1,580	508
固定負債	35	37
負債合計	1,616	545
純資産合計	11,418	10,347
負債・純資産合計	13,035	10,893

アクセルのこれから

アクセルの強み

要素技術の研究開発から、製品を実現するためのハードウェア、ソフトウェアを総合的に開発できる製品開発力が強みです。

高付加価値製品を実現する総合的な開発力

ハードウェア開発力



ソフトウェア開発力

要素技術の研究開発

画像・動画・音声圧縮、超解像、暗号、AI等

既存領域



新規領域

パチンコ・パチスロ機市場

展開市場

既存領域であるパチンコ・パチスロ機市場を基盤に、当社の強みを生かすことができる市場へと展開していきます。

ミドルウェア

圧縮技術等を中心に主にゲーミング市場での活用を想定したミドルウェアをラインナップ

AXIPシリーズ

動画圧縮

H2MD

超解像

GRADIA.

ファイルパッカー

VUCKET

音声圧縮

(Cf)

DNN※フレームワーク

ai|ia

新製品

Coming Soon



他社にはない幅広いラインナップで
クリエイターを総合的に支援



暗号技術

技術情報の漏えいやハッキングのリスクを情報の暗号化によって防ぐセキュリティ製品（ハードウェア・ソフトウェア）を販売

セキュリティ製品



SHALO-HL

USBドングルをハードウェアキーとして暗号化

SHALO-SL

ライセンスファイルを発行することによりセキュリティを確保

ブロックチェーン支援

VIPPOOL

ブロックチェーン技術のプラットフォームと顧客基盤獲得を目的に100%子会社として設立



暗号通貨・個人情報・製品情報等
あらゆる分野の情報セキュリティに応用



機械学習

画像認識をはじめとする機械学習技術の研究とその技術に応用した製品の開発

ディープラーニング・フレームワーク

ディープラーニングの知識がなくても簡単に利用可能



画像認識ハードウェア製品

ドメイン特化型IoTプラットフォームの研究開発成果を応用して製品開発



監視カメラや自動運転システムなど
物体検出やスマートフォンアプリ・ゲームなどの
画像認識の仕組みに活用

